

市政トピックス TOPICS

10月28日、新設の「真庭市未来を担う人応援基金」の活用事業、また、策定中の「真庭市教育振興基本計画」について、多くの市民の意見を聞くためのワークショップを市役所本庁舎で開催しました。高校生を含む約70人が参加し、グループに分かれ、「人生を応援するためにあったらいいもの、やったらいいこと」をテーマに意見交換を行いました。活用事業は市外を含む個人、市内に拠点を置く企業や団体が対象で、事業案を募集したところ約130件の応募があり、審査後、事業化や政策の参考にしていきます。



出席者が出た意見を書き出しながら話し合う参加者

人生を応援することを考えるワークショップ 真庭でこんなことをやってみたい



意見を取りまとめる参加者



考えた意見を発表する高校生

11月5日と6日の2日間、愛媛県松山市で「ゆるキャラグランプリ2016 in 笑顔のえひめ」が開催され、016 in 笑顔のえひめが開催され、真庭市キャラクター「まにぞう」も参加して真庭市のPRを行いました。会場には、キャラクターや自治体をPRするブースやご当地グルメなどが並び、訪れた約5万人の来場者は、全国のキャラクターたちとふれあいながら、晴天の下で楽しいひと時を過ごしました。まにぞうの最終結果は、裏表紙で紹介しています。

ゆるキャラグランプリ2016 まにぞうも現地でPR



多くの来場者がつめかけた会場



工事の安全を祈り、鍬入れをする太田市長

北房小学校建設安全祈願祭 新しい教育施設の建設開始

10月29日、北房地域の4小学校を統合整備する「北房小学校」の安全祈願祭が建設予定地の旧至道高校跡地で開かれました。同地域の5幼稚園・保育園を再編する「北房こども園」などと併せた新教育施設として平成30年4月の開設を目指しています。同小校舎は木造一部鉄筋コンクリート2階(延べ約3733平方メートル)。普通教室の壁や体育館の屋根には、教育施設としては全国初となるCLT(直交集成板)を使用します。



市政に関する動きの一部を紹介します

10/30 お米にするのって大変

川東小学校の5年生が地域のボランティアの皆さんに教わりながら、昔ながらの「足踏み式の脱穀機」や「唐箕」を使って脱穀体験をしました。児童たちは、慣れない道具に苦労しながら、一生懸命挑戦していました。



11/12 それぞれの役割りで考えて

元佐賀県武雄市長の樋渡啓祐さんを講師に「真庭市議会まちづくり講演会」が落合総合センターで開催されました。地方創生のためには、スピード感とストーリーが何より大切などとお話されました。



市長室から こんにちは!

早いもので、もう師走の声

今年は、異常気象で野菜づくりは大変でしたし、鳥取地震もありました。しかし、台風被害はほとんどなく、比較的平穏な11カ月だったのではないのでしょうか。

真庭市政を振り返ると、少子高齢化による課題は多くありますが、全体として順調に進んでいると思っています。岡山米子道の4車線化（一部）実現の決定がありました。真庭産業団地へ続々と企業進出、製造品出荷額や給与支払額の大きな伸び、バイオマス発電所の順調な稼働などで、地域の経済循環が活発化しています。馬術の原田選手のオリンピック出場は大きな夢と勇気を与えてくれました。女性が子どもを生む合計特殊出生率も年々上がり、平成27年は2.21と全国に誇れる状況です。これらは、真庭市民の頑張りの現れ。感謝感謝で、私も皆さんから元気を貰っています。この元気さを持って新年を迎えたいと思います。皆さんも、よいお年をお迎え下さい。



すっぽんのそばき方を学ぶ参加者

11月7日、北房あざえ茶屋で、すっぽんを地域おこしに生かそうと北房地域の飲食店などを対象にした「すっぽん料理勉強会」が開催されました。北房には昔からすっぽんが息しており、食べる人も多かったことから、観光客を呼び込む名物料理を作ろうと真庭市と北房観光協会が初めて企画。旅館など5店の6人が参加し、レストラン「北房ほたる庵」の松岡恭正総料理長からそばき方やメニューを教わりました。

すっぽん料理勉強会
すっぽんでまちおこし



ドリルで竹に穴を開ける参加者

11月13日、社コミュニティハウスで竹灯籠づくりワークショップが開催されました。「中世式内八社の歴史をつなぐ事業」の一環で、地域の竹を活用した取り組みを行なうことになり、県内をはじめさまざまな場所で、竹筒にろうそくや照明を入れた「竹あかり」を演出している事業所「竹吉」を講師に招き初めて開催。ここで作られた灯籠は、大晦日に佐浪良神社や佐浪良の大杉周辺に灯して、幻想的な空間を作り上げます。

竹灯籠づくりワークショップ
大晦日に灯します